

2021 年度会長特別委員会

「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」特別委員会(第5回)

議事要旨

■日時:2022(令和 4)年4月 11日(月)10 時~12 時

■形式:オンライン(Zoom)

■出席者:

1. 会長挨拶

- そろそろまとめの時期に入っている。
- アフターコロナのビッグピクチャーとして、あえて年次を絞らず議論してきたが、政府の諸計画の5カ年では短い。ビッグピクチャーはもう少し長い計画であるべき。一方、100 年後では具体的プロジェクトが分からない。リニアが2037年、カーボンニュートラルが2050年とすると自ずとまとめの中心はこれくらいになるのでは。

2. 前回議事録の確認(事務局)

(略)

3. BP 草案 WG より

(略)

【コメント】

(塚田幹事)

- 序論の次にイントロがあってもいいかもしれない。

(谷口会長)

- 書いて欲しいことは概ね書いて頂いているが、出入りの整理が必要。中島パートはもう少しさらっと書いて、白水パートへ移した方がよい。
- 中島パートに、継往開来、プロセス重視をセットで入れて欲しい。JICE 調査、note 投稿コンテンツ、学会誌でも戦略的取り組んできた。濃淡は別として外部の有識者や国民の声を反映したことを書き込んで欲しい。
- 白水パートについて人口分散を強化して欲しい。災害多発からのリスク分散、加えてコロナで大都市の脆弱性が露呈する一方、テレワークでの地方生活が可能に。欧米では、社会資本は自然と対立概念、日本もそれに引っ張られてきたが、日本は自然と協調というカーボンニュートラル。小池先生の Well-being はパラダイムシフトであり、変わったなという印象を与えると思う。
- 拡張思考は誤解されるのでは。グローバルな視点が重要なのでは。対立から協調、共生も。
- 財源を連動した長期計画といきなり書くのではなく、政府の責任でしっかり長期計画を立てる、でいいのでは。財源の話は後半で記述。受益負担とか国債発行、積極的投資になるのでは。
- 青函トンネルと四国新幹線が並んで産業政策に入っているが、四国新幹線は人流では。分散型国土形成・リスク分散・交流の文脈ではう。
- インフラの整備水準もきちっと書く。まだ概成していない。
- 防災・減災、国土強靱化、維持管理更新は世論に受け入れられているが未来への投資がまだ。国土強靱化3割、維持管理更新が3割、未来投資が4割をイメージ。予算全体が変わらなければ維持

管理が増大する分、未来投資が減る。しかるべき予算の確保が必要。IG と GDP の関係を述べて予算の確保、真のストック増について書いて欲しい。

- 未来の投資について、青函トンネルと四国新幹線が書かれているが、格差是正は水平展開だけでなく、もう少し垂直展開についても書くべき。バイデン大統領のEV充電50万基整備提案など、シンボリックな投資を書きいただければバランスがいいかなと思う。

(石田副会長)

- ビッグピクチャーは1枚の絵。国土交通行政で感じるのは施策間の連携が口だけということ。そこについてもう少し踏み込んだ発言があってもいいと思う。例えば青函トンネルを作っても北海道の中の鉄道がぐちゃぐちゃだとダメ。農業施策の貨物鉄道として使うとかコラムで書くべき。DXについての発言をもう少ししても良い。DXをどう上手く使いこなしていくのか。国土、歴史が刻まれた空間に我々は責任を持っているのでDXを手放して大歓迎としない方がいい。連携においてDXは大事な問題。
- 人口について、人口は減少してどうにもならないという思い込みに支配されているのでは。もう少し元気を出して頑張っていくのもいいのでは。フランス・北欧も1970年代は出生率が低下していたが政策大転換で現在は2近い。そういうことに土木の Well-being、ビッグピクチャーがどう貢献するか書いてもいい。人口問題審議会は70年代まで人口抑制を考えていた。勇気を出して発言してもいいと思う。

(屋井副委員長)

- まとめの時期であり、議論する段階ではない。抜けていることをどうやって補完して全体として不自然じゃないストーリーを作る段階である。
- トーンとして気になった1点は、中島パートでは欄外にインフラを生活インフラと経済インフラを分けて、白水パートでも社会資本に直結させている点。20世紀末に土木に対する批判から社会資本と言い始めて、今は社会基盤に戻っている。インフラが経済だけを目的にしている訳ではないということを書いてほしい。公共経済学の議論、経済学は役立っていない。テクノロジーは危険だけど役立っている。土木は後者だ。土俵が経済学だというのは気に入らない。いろいろあるのだけどボールを先送りしないで、我々はこうだと言い切ってもいいと思う。当たり前が当たり前。B/Cと経済の話をしたらもとの土俵に戻ってしまう。変えようという時にどうかと思う。新自由主義批判の中でもう言えると思う。B/Cと経済に貢献のところは変えて欲しい。B/Cは事業採択時評価、長期計画はこうなって欲しいということ。海外の場合、長期計画は2行ではなく具体を書いている。構想段階だから現時点のB/Cは1以下だけどこういうインフラがあったらということが書いてある。こういうことが重要なら国民目線で共有できれば、では進めようという形になっている。いきなりプロジェクトになるわけではないが構想を共有するところから始まっている。評価、事業採択時評価という土俵からではないということを書けば変わってくると思う。

(白水幹事)

- 経済学についてどの程度の書き方にするか意見が欲しい。

(小池委員)

- 屋井先生の話はごもっとも。どちらにしろ共同体という意識が今回のキーワードでこれを前面に出さないと合意もインフラもできない。多様性とは、リニアで言えば静岡県民の一員であり国民の一員ということ。同時に複数の共同体に属しているのが多様性ということ。世界平和と国土の開発の関係。アダムスミスはシンパシーと呼んでいる。共同体意識があればいろんな問題が解決すること書けば上手くいくと思う。B/Cについては書き直す。

(屋井副委員長)

- 社会的共通資本はどこまでを含むのか。普通、インフラ、公共財、道路、ダムなどと捉えると思う。いきなり、共同体、無形資産も土木なんだ、とは来ない。これらは上から作るのは難しい。防災も共同体意識も上からは難しい。書き方を丁寧にしないと誤解を生みそう。共生は重要なので丁寧に持っていくべき。インフラの定義で書けるのか。宇沢流で分かるのか。
- 国土像について、国体と国政と国民とあるが、国民は別。国土と一緒に出てくるがコミットしたいということを書かないと行けない。乱暴な書きぶりだと思う。

(水谷委員)

- 地域の自律性が失われることが問題。日本のどこにいても夢を持って生きられることを書くべき。
- 地方の産業は農業に加えて観光もある。観光で生きていきたい人も多いので書いて欲しい。

(山田(順)委員)

- 農業という表記より農林水産業の方が広がりがある。
- 気候変動についての記述が1箇所だけ。自然災害に対する支払が増えている。事前復興も重要。

(山田(菊)委員)

- これぞビッグピクチャーという絵っぽいもの1枚があると訴求力がある。
- 3章の制度と政策について良いと思うが10個もある。グループ分けをすべき。土木の外の人がなんとなくイメージが湧くような4つぐらいの作文、タイトルが付けることができれば共有できるのでは。

(兵藤委員)

- 公共政策としての物流という記述に、世の中変わってきたなと感じた。
- 山田(菊)委員が言うようにマスコミが取り上げやすい1枚があった方がいい。概念的なものは伝わりにくい。絵があった方がインパクトがある。

(田名部委員)

- ビッグピクチャーの言葉の定義が曖昧。白水パートでビッグピクチャーの要件と書いているのでビッグピクチャーの実態があるはず。このあたりWGで議論したい。

(鹿野委員)

- 会長もコメントしているが、財源と連動した長期計画ではなく投資額をきちっと書いた長期計画ということでは。海外ではプロジェクトや投資額を位置づけている。位置づけることによりインフラを効率的に整備でき、民間も投資ができる。民間投資との関係も入れて欲しい。

(楠田委員)

- Well-being はトレンドの言葉であり、白水パートでもう少し深く書いてもいいと思う。
- 一般の方に向けてのメッセージは「当たり前前」が分かりやすいのでは。
- 国民の参加、デジタルを使うと一緒にやることが増えて、参加も受け身ではなく一緒に作っていくことが増えるのでは。

(楠見委員)

- 一極集中の是正、国土の均衡ある発展についてはかなり踏み込んでいただいた。将来的にはどこに住んでも仕事ができる、働き方改革、少子化対策に結びつけることを書いていただければ。
- 第3章で産業政策、エネルギー政策、カーボンニュートラルについて書かれているが、ウクライナ侵攻以降、エネルギーについて変わりつつあるのではないかと。例えば首都圏電力逼迫問題。中電の道路トンネル電力入札不成立とか、ひょっとしたら長く続くのでは。カーボンニュートラルの中でメガソーラーを進めているが平野が国土の30%しかない我が国で景観の問題から進めて良いのか。ベストミックスの話を加えて欲しい。日本の場合、エネルギーの問題は大きいと思うので充実して欲しい。

(白水幹事)

- 1枚で示すのはなかなか難しい。

(中島幹事)

- 楠田委員の当たり前の話、屋井先生の物理インフラの話の前さばきで整理できれば全体としてつながると思う。
- 1枚の絵についてはイギリスの例が。日本版で1枚書けると伝わっていくかと。

4. 今後のスケジュール等

(塚田幹事)

- 本日の議論を受け、中島パートと白水パートを合体させて1つの文章にし、今週末、草案策定WGで議論、素案を皆さんに連休前に1回か2回提示して、抜け、表現を議論、5月9日に次回委員会を開催する予定で進めたい。

(谷口会長)

- 5月13日が理事会であり、皆さんの意見を反映した素案を早く出してほしい。1枚のストーリーと目次・文章をセットで4月25~26日に出して欲しい。
- ビッグピクチャーは全体俯瞰図。全体最適の総合的な見通し。生活経済社会、国土のあり方がどうあるべきか。フローとストックの関係の切り口で屋井先生と小池先生のバランスを取れるのでは。多面的なとらえ方が重要。
- 1枚の絵よりサブタイトル。アフターコロナの日本創生、Well-beingの・・・キャッチコピー。小見出しも重要。近い将来・遠い将来の図、3つの要素、いろいろなまとめ方はあると思う。5月9日に向けては文章・ストーリーにエネルギーを注いで欲しい。

(屋井副委員長)

- 上田先生からノルウェーの話があった。先進諸国の制度をエビデンス・附属資料として用意できるかも知れない。長期計画制度・財源についてこの20年で外国も変わってきたとか40年変わってないっていうのは一つの根拠になる。ノルウェーについて少し見てみたがなかなか面白い。構造物もスケール感もプロジェクト財源連動した長期計画も面白い。エビデンス的に使えるといいと思う。

(上田委員)

- ノルウェーについてはリセントライゼーションなど参考になることが多い。
- noteで取り入れたのも1つの章として取り入れた方がいいと思う。

(谷口会長)

- 屋井先生の話は重要。土木学会はそういうことが大事だけど会長任期が1年なので。
- 先日JR四国社長と話をした。青函トンネルより長いスイスのトンネルはB/Cは一つも議論していないとのこと。諸外国は経済を超えた「こうあるべきだ」でインフラを整備している。私としてこれを契機にしかるべき評価でやるべきだということがにじみ出るビッグピクチャーにしたい。
- 公共交通インフラとしてのとらえ方が弱い。我々のビッグピクチャーの強みにしたい。

(石田委員)

- 楽しそうな絵をお願いします。

以上